

第1 事業の概要

令和3年度は、一般財団法人としての9年目であり、継続事業として「日本学の総合研究・普及」、「日本学に関する講演会・講習会の開催」、「日本学に関する雑誌・図書の刊行」の3事業を実施し、当協会の目的である学術文化の発展に寄与すべく尽力したところであるが、新型コロナウイルスの関係で実施できなかった事業もあった。

第2 事業の実施状況

1 日本学の総合研究・普及(継続事業1)

本事業は、広範かつ多岐にわたる日本学の総合研究を研究者の個人研究、共同研究あるいは研究会を通じて行うとともに、その普及を図るものである。

(1) 研究及び研究会

研究者は、大学教授、高校教諭、評論家などの本会の研究員をはじめ、本会の趣旨に賛同する研究者であるが、専任研究員13名については、各自の研究項目の研究を引続き行ったところである。

研究会については、各地(水戸、岐阜、浜松)において地域の特性に応じた定例研究会を例年行っているが、令和3年度は、新型コロナウイルスの影響で実情に応じ実施した。

(2) 公開研究会

平成23年度から実施している公開研究会は、令和2年度に引き続き「日本学講座」を「日本の発展に尽くした人々」をテーマに、2回の開催予定であったが、新型コロナウイルスの関係で中止した。

(3) 研究成果の普及

研究成果の論文等は、学術誌『藝林』と機関誌『日本』に発表した。

以上の研究事業の概要は、下記のとおりである。

研究者の学会発表回数：13編	『藝林』発表論文
研究者の論文発表回数：81編	『日本』発表論文

2 日本学に関する講演会・講習会の開催(継続事業2)

本事業は、日本学普及のために行っている講演会、藝林会学術研究大会、講習会の事業である。

(1) 講演会

令和3年度は、関西講演会(第19回)は同年10月3日(日)、国民会館において「日本の防衛を語る！ー激動の東アジアにどう向かうかー」と題して(講師 参議院議員 山田 宏)開催した。

なお例年実施している、東京講演会は、新型コロナウイルスの関係で実施しなかつ

た。

(2) 藝林会学術研究大会

藝林会学術研究大会は、毎年テーマを設けて開催し、記念講演、研究発表等を行っているが、第15回目となる令和3年度は、令和3年10月17日(日)、オンラインにより「承久の変(乱)をめぐる諸問題」を主題に、研究発表(研究報告「『六代勝事記』と『神皇正統記』における承久の変(乱)」 神戸大学人文学科 講師 齋藤 公「後鳥羽・土御門・順徳三天皇の神霊還遷と明治国家」福井県立歴史博物館 学芸員 橋本紘希)に引続き相互討論を行った。(発表論文等は、『藝林』第71巻第1号に掲載した。)

(3) 講習会

講習会は、日本学を高校生や大学生、社会人等の青少年に普及するために2泊3日の合宿形式で実施しているが、令和3年度も「わが国と日本人のあり方を考える」をテーマに令和3年8月20日(金)～22日(日)、奈良・大阪で例年通り開催予定であったが、新型コロナウイルスの関係で中止した。

(4) 開催結果

定例講演会(関西)	参加者: 130名
藝林会学術研究大会	参加者: 35名(オンライン参加)

(5) 広報活動

定例講演会、藝林会学術研究大会の開催は、ホームページを始め月刊誌『日本』及びチラシ等により、広報を実施した。

3 日本学に関する雑誌・図書の刊行(継続事業3)

本事業は、日本学に関する研究成果の発表並びに普及を図るため、学術誌『藝林』と機関誌『日本』を発行するとともに日本学に関する図書の刊行および出版助成等を行うものである。

(1) 学術誌『藝林』の編集・刊行

『藝林』は、国民の道義を高揚し日本文化を向上させるため、真摯で自由な学問的研究を行うことを目的に設立された藝林会の学術誌である。歴史・文学・思想などの人文系学問の研究成果を発表する場として、会員のみならず広く一般から寄稿された論文を掲載している。令和3年度は、第70巻第1・2号を刊行した。

(2) 機関誌『日本』の編集・刊行

『日本』は、広く日本学を普及するために刊行している月刊誌である。執筆者は、評論家、大学教授をはじめ各界の専門家、有識者等で、内容は政治、経済、歴史、文学など幅広い分野にわたっているが、投稿も掲載している。令和3年度は第71巻第4号～第72巻第3号を刊行した。

販売・頒布は、定期購読者以外にも、有識者への寄贈や学生には購読料を半額とするなどして普及に努めた。

(3) 図書の刊行

ア、図書は、『平泉澄著作集』の電子化刊行の研究と準備を実施した。

イ、『先哲を仰ぐ』(四訂版)及び『「桃李」・「日本」巻頭言集』の刊行準備を実施した。

(4) 研究成果発表関係刊行物

ア 定期刊行物

名 称	頁 数	発 行 部 数	備 考
藝 林	458頁	300部	年2回刊行
日 本	55頁	700部	年12回刊行

(5) 広報活動

『藝林』と『日本』の広報は、主としてホームページで実施した。